



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

平成 31年 1月 日

岡山市長 大森雅夫 様

フリガナ トミヤマタスケアイタイ
団体名 とみやま助け合い隊

所在地

連絡先

フリガナ

代表者 役職・氏名

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ☒ ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	とみやま助け合い隊
事業実施小学校区・地区	富山小学校区
事業実施回数	☒ 新規 継続 回目 / 【 年度から】
課題	1. 地域の実情 ・当学区は、高齢化率が31%（30年8月末）と近隣他地区に比して高い。少子・高齢化の流れの中、2025年時点では高齢化率は40%にも達するかと予想される。必然的に、高齢者の一人暮らし、高齢者のみ世帯が増加する。 ・公共交通機関はバスのみで、東西に通じる県道を走る。住宅地域は県道を挟んで広く南北にも広がっている。 ・地域内に総合病院はなく、市中心部にある総合病院を利用するケースが多い。 ・また、スーパーマーケット2店は、いずれも県道沿いに立地している。 ・つまり、県道沿いの住民は通院や買い物にたやすくバスを利用できるが、県道から南北に離れた地域に住む高齢者や障害者にとって、バス停まで歩くのはきつい。 ・住宅は1戸建てが圧倒的に多く、日常的に草取りなどのメンテナンスが欠かせない。 2. 課題、 ・当地区住民の日常生活は、車への依存度が高い。高齢者が免許返納等により、車を手放せば、日常生活の不便度が一挙に上がる。 (アンケートにおいて、他地区への移住を考えている理由として上記の点を挙げる者が多い。) ★添付「富山地区包括ケア（支援）システムの構築についてのアンケート集計・ご報告」参照 ・高齢化等による体力・運動能力の低下は、自宅の管理にも支障をきたす。 3. 事業実施の必要性 「高齢者に限らず住民がいつまでも住み慣れたこのまちで住み続けられる」ためには、日常生活上の困りごと支援（通院や買い物時の付添、庭の草取りなど）の提供が不可欠である。

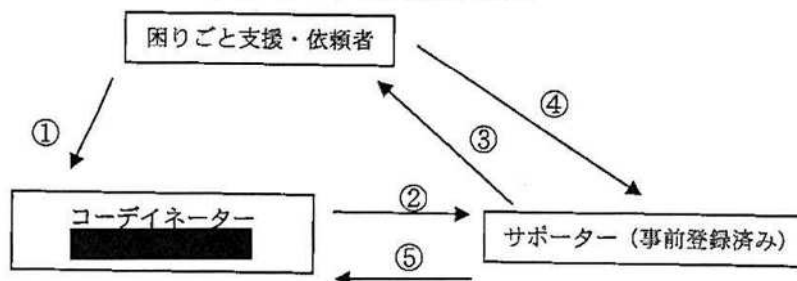
事業の目的

・「いつまでも住み続けたい富山」の実現

地域住民が抱える日常生活上の困りごとと解決のための支援を提供することにより、「住み慣れたこの富山でいつまでも住み続けたい」と誰もが考えるようなまちづくりを目指したい。

1. 困りごとと解決のための支援を提供する。

本システムの概要（詳しくは、添付のチラシを参照願います）



（説明）

①困りごとと支援依頼者 → コーディネーターにtel

②コーディネーター → サポーターを斡旋

③サポーター → 支援を実施

④依頼者 → サポート料を支払う

⑤サポーター → 支援の終了を報告（内容・時間・料金等）

★ 特殊な技術を要するもの、危険を伴う作業は対象外

★ 有料・・・基本料金30分まで300円、以後10分増すごとに100円追加（一人に付き）

★ 屋内作業・・・原則2人体制で行う。

★ 事務手数料・・・サポート料が1000円以上の場合 → 20%を事務手数料として、当隊に振り込む。

事業の内容

2. 広報・・・イ. 住民に対する本システムの概要・利用方法の周知 チラシ全戸配布

（1月）

ロ. マグネットシート（電話番号、受付時間、休日等記載）作成配布（全戸）6月

ハ. 「とみやま助け合いだより」（仮称）発行（9月、3月 年2回）

利用例・利用状況の開示、決算報告、事業所・篤志家への主旨徹底

3. コーディネーター研修会開催（6月、12月）

4. サポーター募集・説明会、研修会開催（5月、7月）

サポーター登録目標 31年度 50名

5. 特別会員（事業所・篤志家、会費1万）の募集 目標 2会員

6. 運営の透明化 → 随時に運営・利用状況を検証し課題を発掘、改善を図る。

必要に応じて課題および改善点を開示する。

理事会開催（隔月）→小地域ケア会議への報告

役員会・事務局会議開催（隔月）→理事会への報告

7. 「とみやま助け合い隊・支援活動記録」の全件記載

→ システムの検証・改良に、記録は欠かせない。

期待される成果・目標	1. 期待・・・自助・共助意識の高揚を期待する。 何かにつけ、「行政に頼る。行政のせいにする」では、本当のまちづくりにはならない。 自助・共助を基本として、住民自らが、住みやすいまちを作っていく（自らビジョンを描き、自らまちづくりに参加する）のが当たり前との雰囲気をつくりたい。 当事業は、そのための一歩である。 2. 目標・・・利用件数 100件 （31年度）
企画などの工夫	・小地域ケア会議（隔月・偶数月に開催）において、2025年問題を議論する中で、これは単に高齢者福祉だけでなく、「まちづくり」そのものに関わる問題であると認識した。 ・28年度の1年間、当会議でこれらの諸問題を議論した結果、学区全所帯を対象にアンケートを実施した。 ・アンケート結果を分析、日常生活における困り事支援システムの構築が喫緊の課題であるとの結論に達し、本事業を立ち上げたものである。第1次福祉活動計画にも織り込んだ。 ・30年4月、「とみやま助け合い隊」発足 ・30年9月 一部地域を限定（福泊川東町内会）してテストラン（試験運用）を実施した。 住民の反応やサポーターの動向把握、コーディネーターとして留意すべきことのピックアップ、システムが円滑に機能するかの確認、併せて住民・サポーターへの広報等を意図したものである。 ・31年1月より、学区全域を対象に本格運用を開始する。 ★添付の諸資料を参照ねがいます。
協働する団体等	・学区内主要団体（小地域ケア会議メンバー団体） 富山学区連合町内会、富山地区民生委員児童委員協議会、富山学区愛育委員会、富山学区婦人会、富山学区栄養改善協議会、富山学区老人クラブ連合会、富山学区障害者クラブ ・山陽学園大学 ・地元有力企業、福祉関連施設 ・・・広報、支援依頼者のニーズ発掘、サポーター発掘 ・・・各種データ処理に関する助言 ・・・広報、特別会員としての協賛・後援、
事業の情報公開	1. 本格運用開始時（1月）、住民向け本システムの概要・案内ちらしを配布（全戸） 2. マグネットシート（電話番号、受付時間、休日などを記載）の配布（全戸） 3. 「とみやま助け合いだより」（仮称）を年2回発行（全戸配布） 4. とみやまだより（公民館発行・全戸配布）に掲載（適宜） 5. 富山学区電子町内会 HP に掲載 6. 高齢者いきいきサロンや老人クラブへの情報提供
学区地区への広がり	（学区全体を対象に実施する）。

前年度からの見直し拡充点	改善すべき点（テストランの結果を踏まえて） 1. サポーターについて ①増員が必要である。現在登録者数36名であるが、最低50名は必要である。 ②サポーターが地域的に偏在している。配置のバランスが不可欠である。 ③サポーター研修会の実施 - 支援に当たっての心構えや、留意すべき点など共通認識を持つ必要がある。 ④サポーター用支援マニュアル、グッズ（領収書など）の作成・配布 2. コーディネーター研修 - 支援依頼者やサポーターへの対応につき留意すべき点をピックアップ、情報・認識の共通化を図る必要がある。 3. 自前資金の拡充に努める。
次年度以降の予定	①次年度（32年度）以後の活動計画 ・広報活動の強化・継続・・・当システムをまちづくりの柱として定着させるには、不断の広報が欠かせない。「とみやま助け合いだより」（仮称）の発行（年2回、全戸配布）等。 ・利用者数・増加 目標 150件 ・サポーター募集説明会・研修会の開催 目標（最終 100名） ・コーディネーター研修会の開催 ・特別会員（会費10,000円）の増加・募集 32年末目標 5会員 ・NPO 法人化を目指す ②資金の確保について ■次年度も区づくり推進事業を申請する予定 ■3年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 資金確保の具体的な方策 ・事務手数料・・・サポート料金が1000円以上の場合、事務手数料として20%を徴収。 31年度 10,000円を見込む ・広告収入・・・「とみやま助け合いだより」（仮称）（作成・全戸に配布）に広告を掲載する。 1枠・5000円 ・特別会員の発掘・・・地元有力企業、福祉関連の施設に特別会員として助成（会費）を依頼する。 31年度目標 2会員 2万円、32年度目標 5会員 5万円
その他PRしたい点	1. 小地域ケア会議で2年余にわたり議論したこと 2025年問題は単に高齢者福祉だけではなく、「まちづくり」そのものに関わる問題である。 2. 全所帯を対象にアンケートを実施したこと その結果、住民の日常の困りごと支援が喫緊の課題であることを確認し、「とみやま助け合い隊」の立ち上げとなった。 3. 第1次福祉活動計画に織り込んだこと 4. 全学区への本格運用に先立ち、テストラン（試験運用）を実施したこと 住民やサポーターの反応、円滑な運用にあたって改善すべき点など貴重なノウハウを確認することが出来た。

事業スケジュール (企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。)

月日	活動内容
4月	・小地域ケア会議&とみやま助け合い隊理事会 ・30年度決算、30年度活動報告、31年度予算、活動計画 ・広報チラシ 全戸配布 ※現在、国土交通省に検討依頼中の移送時間の取り扱いが決定次第、配布する必要あり。
5月	・とみやま助け合い隊役員会・事務局会議 ・サポーター募集説明会 ・サポーター研修会
6月	・小地域ケア会議&とみやま助け合い隊理事会 ・コーディネーター研修会 ・マグネットシート全戸配布
7月	・とみやま助け合い隊役員会・事務局会議 ・サポーター募集説明会 ・サポーター研修会
8月	・小地域ケア会議&とみやま助け合い隊理事会
9月	・とみやま助け合い隊役員会・事務局会議 ・「とみやま助け合いだより」(仮称)31年上期号 発行 ・コーディネーター研修会
10月	・小地域ケア会議&とみやま助け合い隊理事会
11月	・とみやま助け合い隊役員会・事務局会議
12月	・小地域ケア会議&とみやま助け合い隊理事会 ・コーディネーター研修会
1月	・とみやま助け合い隊役員会・事務局会議
2月	・小地域ケア会議&とみやま助け合い隊理事会
3月	・とみやま助け合い隊役員会・事務局会議 ・「とみやま助け合いだより」(仮称)31年下期号 発行

収 支 予 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	前年度決算 (決算見込)	予 算	備 考
岡山市補助金		188,800	236,000×80%
実施団体負担金		7,200	
参加者負担金		0	
富山学区自治振興会助成金		0	
富山学区地域協働協議会		0	
協賛金(特別会費)		20,000	目標2会員×10,000円
寄付、他(広告)収入		10,000	@5,000×1枠×2回
事務手数料収入		10,000	
計		236,000	

◆ 支 出 ※予算の詳細は添付の経費予算・積算を参照願います。

消耗品費		94,000	住宅地図 15,000 マグネットシート 75,000 プリンターインク 2,000
食糧費		21,000	会議・サポーター募集説明会等 飲料代 21,000
印刷・製本費		51,000	広報ちらし サポーター用説明会ちらし、 サポーター研修会資料、会議用 資料、サポーター用マニュアル・ グッズ、「とみやま助け合い便り」 等印刷 51,000
通信・運搬費		46,000	携帯通話料 36,000 運搬・郵送費 10,000
報償費		6,000	講師用手土産 @3000×2人
保険料		18,000	ボランティア保険 @350円×50名
計	0	236,000	

◆概算交付の要否(いずれかに○をしてください)。(補助金額が20万円を超える場合のみ)

補助金の概算払いを	希望する	希望しない
-----------	------	-------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください

注①：前年度決算額が確定してない場合は、見込み額を記入してください。

注②：支出の費目は、消耗品費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・通信運搬費・広告料・手数料・使用料
など適当な費目に分けて記入し、備考に積算内訳を記載してください。

注③

※記入欄に書ききれないときは、別紙として添付してください。